

(5) 66歳(平成17年) 氷河の山へ

・62歳 一度は海外の高峰へ

還暦を過ぎた頃 Sさんと、歩けるうちに海外の高峰に一度は登っておこうということになり、限られた紙情報をもとに検討し、氷河登山の経験がなくても登れる最も高い山アコンカグア(6962m アルゼンチン)を目標に置いた。海外遠征の基本的な知見に欠ける2人が、計画をつくり、自から手配し、年末年始の休みを活用して実行したが、6400mで敗退した。原因はコンロ燃料を十分に携行しなかった失敗もあるが、2人の知見の欠如が大きい。

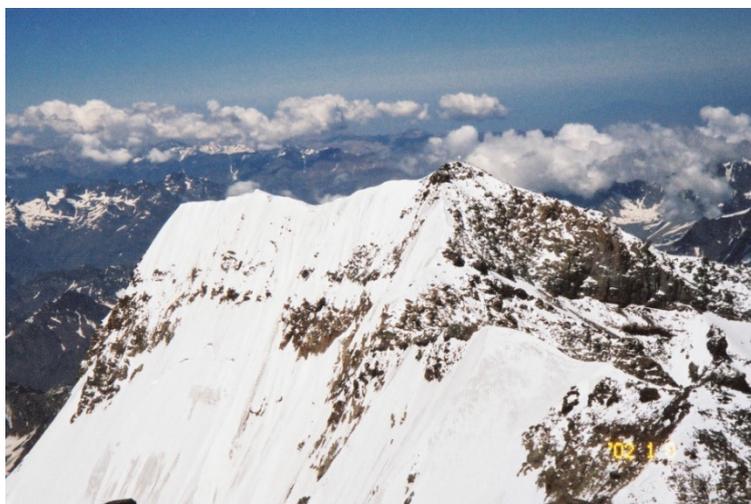
翌年単独で、同じく自己手配で実行した。登頂できたものの、BCに下山後右足の中指が壊死していることに気づいた。原因は装備の耐寒性が劣っていた等今度も知見の不足である。前年の失敗を活かすことができなかった。



登山口からアコンカグア南壁 一般登山ルートは西側から回り込む。

・63歳 氷河の美しさに魅せられた—麻薬に手を出した

「最初で最後」のつもりで登ったアコンカグアで氷河の美しさに魅せられた。麻薬に手を出したようなものである。



アコンカグア頂上(北峰)から南峰の南壁を観る。ここの冬季初登頂者は長谷川恒男である。

留学から帰途(30 歳)アメリカ合衆国コロラド州からポンコツ車でカナダを経由してアラスカ州まで独りで 3 週間旅行した。アコンカグアの氷河はこのとき見たカナディアンロッキーやアラスカで見た氷河とは異なる美しさであった。



コロンビア氷河(カナダ 1969 年)



アラスカ・ハイウエーから見た氷河(アメリカ合衆国 1969 年)

・65 歳 マウント・クックは幻の山となった

2 年後、同じく年末年始の休みを利用して標高は低い氷河の美しいマウント・クックのガイド登山を自己手配した。運悪く稀に見る悪天が続き、雪崩事故発生で入山も禁止され、ガイドから氷河登行の訓練を受けただけで山を観ることもなく帰国した。

この訓練は初めて経験する氷河登行であった。



このクレヴァスの傍で訓練を受けた

・66 歳 デナリ国内公募隊に参加できた

年末年始の休みに限らず日程が自由に組めるように第2の職場も退き、デナリ(当時はマッキンリー、アメリカ合衆国)の国内公募に応じることにした。年齢制限 60 歳をすでに超えていることから、伝手を介して訪ねた隊には事前にいい感触を得ていたにもかかわらず、結果は体よく断られた。

もう一つ訪ねた隊では、私の体力・技術については中島ガイドから直接聴き判断していただきたいとお願いした。後日倉岡裕之ガイドから受け入れる旨の返事をいただいた。まことに有難いことであった。



ランディングポイントに向かう飛行機からデナリ

AリーダーとBサブリーダーが率いる隊はよく準備され、自己手配のアコンカグアと比べれば3食・寝・安全付きであり、隊員3人は体調を万全に維持するように努めればよかった。残念ながら天候に恵まれず、最終キャンプで食糧等の不足に耐えて1週間も粘ったが回復せず、下山予定日に間に合うように徹夜で下山するという得難い経験をした。



最終キャンプで天気に恵まれず、雪に埋もれ、1週間待つ。

・67歳 チョー・オユ国際公募隊で倉岡裕之ガイドに指導を受ける

高所登山の基礎を習った。とくに準備段階で装備、また現地で高度順化についての指導はその後の財産となった。有難いことに倉岡ガイドにはこのときの縁のおかげで、その後も教えていただいている。



ABCからのチョー・オユ



チョー・オユからのエベレスト

[\(目次に戻る\)](#)

[\(次項に進む\)](#)